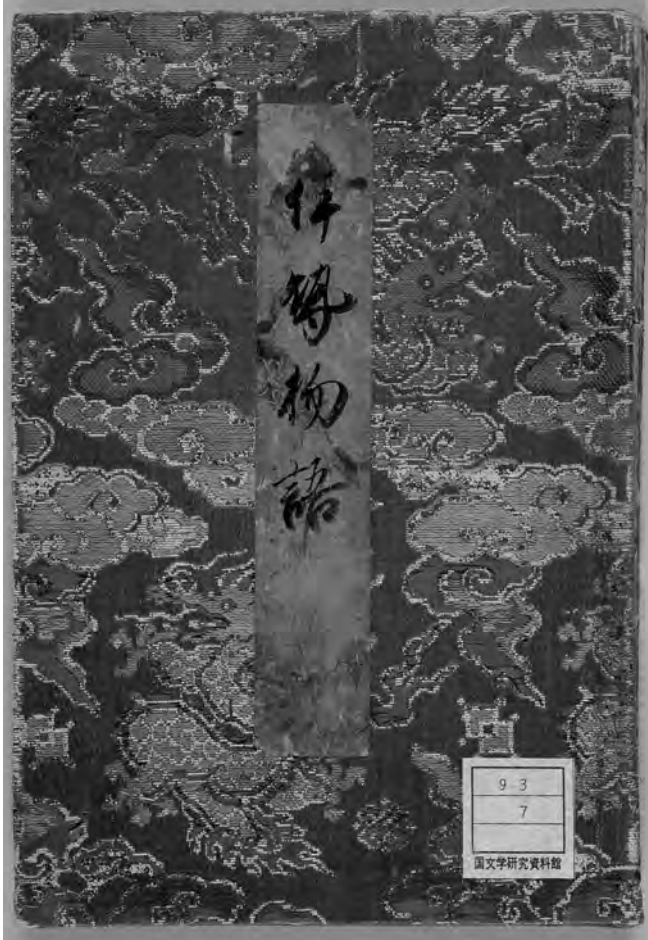


# 門出の贈り物

## —『伊勢物語』の一伝本



『伊勢物語』（国文学研究資料館蔵長谷章久旧蔵コレクション本）表紙

『伊勢物語』は平安時代の物語の中で最も多く流布した物語です。『国書総目録』にたくさんの数の資料があがっていますし、古書店の販売目録にもその写本や板本がしばしば載ります。先年『伊勢物語版本集成』（山本登朗編、竹林舎刊）という嵯峨本から始まる様々な版の古活字本・整版本を二五種も収めた有益な影印資料集が刊行されましたが、これは、伊勢物語が近世を通じて広く受容されていたこと、嵯峨本の影響下にいわゆる古典として多くの版本が製作されたこと等を知らしめる良好な研究書でした。いっぽう、写本の伊勢物語の世界ですが、本文に異なることは勿論のこと、一点一点に伝える人々の営み、ドラマが年輪のように加わるので、そちらの方でも興味が尽きません。

国文学研究資料館では毎年一月に講習会を開催して全国の司書等に古典籍の事を講義しています。数年前に、そこで私が取りあげた

『伊勢物語』も、そんな一回的な人々のドラマを有した写本の一本でした。その本の旧蔵者は、日本風土文学会の初代会長を務めた長谷章久です。平安時代の作り物語の享受に関する研究から、今風に言えばジョ・ポエティックな観点、昔風に言えば紀行文学の観点で、風土と文学の織りなす叙情を豊かに取りあげた先駆的研究などで知られた研究者です。私は歌枕の写真集『和歌のふるさと』（大修館書店刊）が好きですが、その現在の景観とは全く異なる歌枕の写真は、都市化の波に洗われる前の、其処此処の懐かしい風景が重なって見えるようです。

国文学研究資料館では、ご遺族のご厚意により平成十七年に一二五点の写本・版本と多数の歌枕のスライドを受け入れ、これらを長谷章久旧蔵コレクションとして所蔵しています。受け入れにあたって私は一部の整理を分担しましたが、その蔵書目録は本館発行の『調査研究報告』第二七号に掲載しています。

講義で取りあげた『伊勢物語』はそのコレクションの中の一点ですが、書道の榮雅流の祖「飛鳥井雅親卿」の「正本」である旨を記した貼り紙を有します。受け入れ前に、長谷章久博士所蔵王朝文学叢書（翰林書房刊）の一冊として影印本が出版されていました。刊行の言葉に拠ると、この本は日本文学研究者としての門出に際して恩師池田亀鑑よりプレゼントされたお祝いの品であったそうです。

さてその講義の数年後、文献資料調査に赴いた文書館で、将軍家から拝領した品の目録に「筆者飛鳥井榮雅卿」とする『伊勢物語』一点が挙がっているのを見つけました。沼田藩の土岐頼股が宝永二年に徳川一位桂昌院薨去により遺物として賜ったという品です。

伝榮雅筆の『伊勢物語』は、いくつかの古筆切の存在も知られる資料です。ここでは、伝榮雅筆の『伊勢物語』に関わる研究情報を新たに一つ報告することにとどめますが、この更なる調査の礎の提供を以て、資料紹介としておきたいと思う次第です。（江戸英雄）